

## 14 感染症対策

感染症等の広域的で緊急的な課題に迅速かつ的確に対応できる1保健所18保健支所体制の充実を図りました。また、健康危機発生時の迅速かつ的確な一元的対応を強化・推進するため、人材育成を目的とした各種研修の充実を図りました。

結核対策では、り患率減少のために服薬支援事業、健診等の充実を図りました。また、エイズに関する知識の普及啓発や検査等の充実・強化に取り組みました。

新型インフルエンザ対策では、発生時対応用の個人防護具の備蓄や地域中核病院等への医療資器材の整備及び外来従事者用の抗インフルエンザ薬の備蓄を進めたほか、行動計画の市民向けパンフレットを作成し、啓発活動にも取り組みました。

予防接種については、感染症のまん延防止のため、予防接種法に定められた各種予防接種を実施するとともに、平成25年7月に「横浜市麻しん排除戦略」を改訂し、予防接種率の向上を目的とした啓発活動を中心に関係機関・局区と連携し、引き続き麻しん排除に向けた対策の充実に取り組みました。

### 1 感染症

#### (1) 感染症対策（結核を除く。）

感染症法に定められた一～五類感染症等について、発生予防及び患者発生時のまん延防止対策を行うとともに、患者発生状況を国に報告しています。

##### ア 三類感染症

平成26年度は、三類感染症の届出数は計129件でした。そのうち、腸管出血性大腸菌感染症が121件と最も多い届出がありました。コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス8件のうち8件すべてが海外渡航歴を有していました。

##### 三類感染症患者数

年 度	総数	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
平成24年度	99	1	6	89	3	0
平成25年度	82	0	7	69	4	2
平成26年度	129	1	2	121	2	3

##### イ 四類感染症

平成26年度の四類感染症の届出数は95件あり、そのうちレジオネラ症が57件を占めました。レジオネラ症の届出数は過去最も多く、公衆浴場等の施設のほか、自宅浴室等での感染が疑われる例もありました。

蚊による媒介感染症の届出数は、デング熱が23件、マラリアが4件でした。多くは海外の亜熱帯、熱帯地域への渡航歴がありました。デング熱については、8月に東京都内の公園等を推定感染地とする国内感染事例が発生し、横浜市でも関連する患者8例の報告がありました。

蚊媒介感染症対策として、横浜市内公園等19か所で定期的に蚊を捕獲し、採取された蚊について、日本国内で発生流行する可能性のある蚊媒介感染症（四類感染症の日本脳炎、ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア熱）のウイルス遺伝子の有無を調べています。平成26年度の検査結果ではいずれのウイルスも検出されていません。

##### ウ 五類感染症

平成26年度の五類感染症全数把握対象疾患の届出数は366件で、最も多いのは侵襲性肺炎球菌感染症(75件)でした。急性脳炎(25件)及び劇症型溶血性レンサ球菌感染症(16件)の届出は平成25年度に比し3倍以上増加しました。風しんの届出は16件で、平成25年度(478件)に比し大幅に減少しました。五類感染症定点把握対象疾患では、伝染性紅斑で顕著な増加がみられました。その他、平成26年度は9月からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症等が新たに五類感染症に追加されたほか、国内での麻しん排除が達成されました。また、平成27年3月に「横浜市風しん排除戦略」を策定しました。

2014/2015 シーズンにおいて、感染性胃腸炎については、警報は発令されず、集団発生の届出は134件と昨年より減少しました。インフルエンザについては、第47週(11月17～23日)に流行期入りし、第50週(12月8～14日)に注意報が、第52週(12月22～28日)に警報が発令されるなど、いずれも例年より早い経過を示しました。インフルエンザ様疾患による休校、学年閉鎖又は学級閉鎖は述べ298施設の報告があり、患者は4,753人(うち欠席者4,460人)でいずれも昨シーズンの概ね半数でした。

## (2) 新型インフルエンザ対策

新型インフルエンザは10年から40年の周期で発生します。発生した場合、ほとんどの人が免疫を持たないため、市民の健康被害を最小限にとどめるための対策を講じています。

平成21年に世界的に大流行した新型インフルエンザ(A(H1N1)pdm09)への対応を踏まえ、地域中核病院を中心とした新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会を定期的で開催し、保健・医療関係機関相互の情報共有、連携と役割分担などについて協議を進めています。

また、横浜市新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、新型インフルエンザ等の海外発生時に設置する「帰国者・接触者外来」の迅速な開設や円滑な運営を図るため、市医師会や地域中核病院等と協定を締結し、発生時対応用の个人防护具の備蓄や地域中核病院等への医療資器材の整備及び外来従事者用の抗インフルエンザ薬の備蓄を進め、医療体制の強化を図っています。

平成26年度は、行動計画の市民向けパンフレットを作成し、市民啓発にも力を入れるとともに、医療体制を更に強化するため、「帰国者・接触者外来」の設置に関し新たに市内8病院と協定を締結しました。

## (3) 結核対策

### ア 定期結核健康診断

感染症法第53条の2の規定に基づき、結核患者の早期発見のため、結核発症率の高い住民層等に対して定期の結核健康診断を実施しています。

平成26年度は、高齢者・ホームレス・生活保護受給者等の低所得者や外国人・日本語学校生徒等のハイリスク層に対して、福祉保健センター等において、受診の機会を設定しました。

健康診断受診者は、6,824人で、5人の患者が発見されました。

### イ 接触者健康診断及び精密検査(管理検診)

感染症法第17条の規定に基づき、結核の予防上特に必要があると認めるとき、結核にかかっていると疑うに足りる正当な理由のある方に対し、勧告を行い、健康診断を実施しました。

また、感染症法第53条の13の規定に基づき、結核登録票に登録されている方で、結核の予防又は医療上必要があると認める方に対し、精密検査(管理検診)を実施しました。

### ウ 結核医療費公費負担事業

#### (ア) 入院勧告患者に対する医療(法第37条関係)

排菌をしているなど結核を感染させる危険の高い患者については、まん延防止を目的として、法に基づき感染症指定医療機関に入院することを勧告するとともに、医療に要する費用のうち保険が負担した額を差し引いた残額について公費負担を行いました。

#### (イ) 一般患者に対する医療(法第37条の2関係)

市内に在住する主として排菌をしていない結核患者、またはその保護者からの申請に対し、保健所に設置した感染症診査協議会(結核分科会)において申請医療内容の適否について診査を行い、結核医療に要する費用の一部の公費負担を行いました。

### エ 服薬支援事業

簡易宿泊所居住者等が集中している中区寿地区は、結核のり患率が極めて高いなどの地域特性があります。平成12年1月から実施している寿地区DOTS\*1事業は、治療完了率を高め、不完全な治療による多剤耐性結核の防止を図ることなどを目的としています。平成26年度は17人が服薬を終了しました。

また、各区福祉保健センターにおいても対象者全員にDOTSを実施しています。平成19年度からは、薬局におけるDOTS事業を開始し、平成26年度は9人の利用者がありました。

\*1:DOTSとは“Directly Observed Treatment, Short course”(直接服薬確認療法)の略で、保健師・看護師等が服薬確認を行います。

新登録患者数（活動性分類）

	総数			活動性肺結核			活動性肺外結核			潜在性結核感染症		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
平成 24 年	611	388	223	518	340	178	93	48	45	243	118	125
平成 25 年	554	368	186	458	313	145	96	55	41	162	80	82
平成 26 年	578	384	194	461	318	143	117	66	51	197	104	93

※潜在性結核感染症は別掲とし、総数に算入していません。

年末現在登録者数（活動性分類）

	総数	活動性肺結核	活動性肺外結核	不活動性	不明	潜在性結核感染症	
						治療中	観察中
平成 24 年	1,867	450	80	732	685	215	397
平成 25 年	1,640	306	68	751	515	143	483
平成 26 年	1,585	303	74	679	529	153	422

※潜在性結核感染症は別掲とし、総数に算入していません。

り患率・有病率・登録率（人口 10 万人対）

	新規登録患者		有病患者		患者	
	患者数	り患率	患者数	有病率	患者数	登録率
平成 24 年	611	16.5	530	14.3	1,867	50.5
平成 25 年	554	15.0	374	10.1	1,640	44.3
平成 26 年	578	15.6	377	10.2	1,585	42.7

定期結核健康診断実績

年 度	間 接 撮影数	直 接 撮影数	発 見 患者数
平成 24 年度	2,624	3,369	7
平成 25 年度	2,432	3,496	2
平成 26 年度	2,708	4,061	5

接触者健康診断及び精密検査（管理検診）実績

年 度	接触者 健康診断	精密検査 (管理検診)	発 見 患 者 数
平成 24 年度	5,780	385	20
平成 25 年度	4,401	522	32
平成 26 年度	4,718	440	21

(4) エイズ対策

H I V 感染の拡大を未然に防ぎ、患者・感染者が安心して暮らしていけるよう、相談・検査及び医療体制の整備並びに正しい知識の普及啓発に取り組んでいます。

ア 相談・検査・医療体制の整備

平日（開庁時間内）に、市内 18 福祉保健センターにおいてエイズの相談・検査を無料・匿名で実施しました。土曜検査・日曜検査では、H I V 即日検査を行いました。夜間検査（毎週火曜）では、エイズ検査・梅毒検査・クラミジア検査を実施しました。

また、A I D S 診療症例研究会において症例の研究を行うとともに、エイズカウンセラーを医療機関等に派遣してエイズ医療の向上と普及を図りました。

事業実績

年 度	相談件数	採血件数
平成 24 年度	5,109	3,963
平成 25 年度	5,303	4,406
平成 26 年度	5,311	4,249

イ 正しい知識の普及啓発

エイズに関する各種の情報や活動の場を提供する場として「横浜AIDS市民活動センター」を運営し、市民やボランティア団体の活動を支援しました。

また、各福祉保健センターにおいて、啓発キャンペーン、健康教育等を実施しました。

(5) ハンセン病関連

神奈川県出身のハンセン病療養所入所者に対する慰問金を募集しました。 募金額 : 780,331 円

(6) 結核・感染症発生動向調査事業

横浜市内における感染症の発生状況を早期に正確に把握することを目的として、110 の対象疾病について情報を収集しています。これらの情報を分析することにより、的確な予防対策を講ずるとともに、市民や医療関係者に情報を提供し、感染症の発生及びまん延防止を図っています。

ア 結核発生動向調査

患者の発生状況、受療状況等を把握、分析することにより、的確な予防措置を講じ、患者管理の充実を図ることを目的としています。

平成 26 年末の登録者数は、1,585 人でした。

イ 感染症発生動向調査

市内 204 か所の患者定点医療機関及び 4 か所の基幹定点医療機関から、インフルエンザや感染性胃腸炎などの 26 疾患について、毎週（一部毎月）患者発生情報を収集しています。これらの感染症情報をまとめ、月 1 回の感染症発生動向調査委員会においてその動向を解析し、医療機関等へ提供しています。平成 19 年度からは、一般市民にも分かりやすい資料の提供も始めました。

また、市内 16 の病原体定点医療機関から回収した検体の検査を、横浜市衛生研究所で実施しました (857 検体)。

2 予防接種

予防接種法に基づき、感染症の発生、まん延を防ぐため、各種予防接種を実施しています。

平成 26 年 10 月から、水痘と成人用肺炎球菌ワクチンが新たに定期接種化されました。

その他、定期予防接種として、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合（百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオ）、二種混合（ジフテリア・破傷風）、不活化ポリオ、麻しん・風しん、日本脳炎、BCG、子宮頸がん予防ワクチン及び高齢者インフルエンザを、それぞれ協力医療機関において実施しました。

なお、子宮頸がん予防ワクチンについては、平成 25 年 6 月 14 日の厚生労働省の勧告以降、接種の積極的な勧奨を差し控えています。

また、予防接種に起因した健康被害に対する救済措置として、予防接種健康被害救済制度に基づき障害年金 15 件、医療費・医療手当 26 件を支給しました。

ヒブワクチン予防接種実績（接種回数 4 回）〔対象：生後 2 か月から 5 歳未満〕

年 度	対象人数	延べ接種回数	接種率
平成 24 年度※	—	132,638	—
平成 25 年度※	121,460	128,279	105.6
平成 26 年度	120,582	123,797	102.7

※平成 23 年 2 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までは、ワクチン接種緊急促進事業として実施

小児肺炎球菌ワクチン予防接種実績（接種回数4回）〔対象：生後2か月から5歳未満〕

年 度	対象人数	延べ接種回数	接種率
平成24年度※	—	133,233	—
平成25年度※	121,460	123,633	101.8
平成26年度	120,582	123,149	102.1

※平成23年2月1日から平成25年3月31日までは、ワクチン接種緊急促進事業として実施

四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ）予防接種実績（対象：生後3～90か月未満 接種回数4回）

年 度	I期（接種回数：初回3回 追加1回）		
	対象人数(延)	接種人数(延)	接種率
平成24年度※	—	17,224	—
平成25年度	122,548	85,737	70.0
平成26年度	120,582	114,895	95.3

※平成24年11月1日から実施

三種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風）・二種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種実績

〔対象 I期（ジフテリア・百日せき・破傷風）：生後3～90か月未満  
II期（ジフテリア・破傷風）：11～13歳未満〕

年 度	I期（接種回数：初回3回 追加1回）			II期（接種回数1回）		
	対象人数(延)	接種人数(延)	接種率	対象人数	接種人数	接種率
平成24年度	123,096	110,439	89.7	33,717	23,189	68.8
平成25年度	122,548	39,083	31.9	33,674	21,486	63.8
平成26年度	120,582	9,582	7.9	32,858	26,744	81.4

不活化ポリオ（急性灰白髄炎）予防接種実績（対象：生後3～90か月未満 接種回数4回）

年 度	I期（接種回数：初回3回 追加1回）		
	対象人数(延)	接種人数(延)	接種率
平成24年度	—	105,920	—
平成25年度	122,548	53,086	43.3
平成26年度	120,582	25,124	20.8

※平成24年9月1日から実施

B C G予防接種実績（接種回数1回）〔対象：生後6か月未満（～平成24年度）  
生後1歳未満（平成25年度～）〕

年 度	対象人数	接種人数	接種率
平成24年度	30,412	28,960	95.2
平成25年度	30,365	26,640	87.7
平成26年度	29,972	29,994	100.07

麻しん・風しん予防接種第I期実績（対象：生後12～24か月未満 接種回数1回）

年 度	対象人数	接種人数			接種率		
		麻しん風しん混合	麻しん単独	風しん単独	麻しん風しん混合	麻しん単独	風しん単独
平成24年度	31,863	30,840	6	9	96.8	0.0	0.0
平成25年度	31,454	30,267	3	1	96.2	0.0	0.0
平成26年度	31,246	30,636	5	6	98.0	0	0

麻疹・風しん予防接種第Ⅱ期実績

(対象：5歳から7歳未満で小学校入学1年前の4月1日から小学校に入学する年の3月31日まで 接種回数1回)

年 度	対象人数	接種人数			接種率		
		麻疹風しん混合	麻疹単独	風しん単独	麻疹風しん混合	麻疹単独	風しん単独
平成24年度	31,814	29,931	13	8	94.1	0.0	0.0
平成25年度	32,132	29,093	5	5	90.5	0.0	0.0
平成26年度	32,017	30,549	2	4	95.4	0	0

日本脳炎予防接種実績

〔対象：Ⅰ期：生後6～90か月未満：Ⅱ期：9～13歳未満〕

年 度	Ⅰ期 (接種回数：初回2回 追加1回)			Ⅱ期 (接種回数1回)			救済措置 接種人数 ※
	対象人数 (延)	接種人数 (延)	接種率	対 象 人 数	接 種 人 数	接 種 率	
平成24年度	96,587	86,157	89.2	32,831	14,384	43.8	41,763
平成25年度	96,562	79,155	82.0	32,495	5,572	17.1	17,647
平成26年度	95,353	90,584	95.0	31,222	3,962	12.7	12,229

※日本脳炎予防接種は平成17年5月30日に厚生労働省から勧告を受けて以来、積極的な勧奨を差し控えていましたが、新たなワクチンの開発により、平成22年4月から、順次、積極的勧奨が再開されています。

平成23年5月20日から、厚生労働省令の公布により、接種が完了していない方のうち、生年月日が「平成7年6月1日～平成19年4月1日」の間の方に限り、救済措置として、20歳未満まで接種可能となり、平成25年4月から、救済措置の対象となる方の生年月日が「平成7年4月2日～平成19年4月1日」に変更されました。

また、平成24年2月から、生年月日が「平成19年4月2日～平成21年10月1日」の方で1期の対象年齢の期間中に規定の回数を接種していない場合、2期の対象年齢の期間中に、未接種分を接種できるようになりました。

子宮頸がん予防ワクチン接種実績 (接種回数3回) 〔対象：中学1年生相当～高校1年生相当の女子 (平成25年度～)〕

年 度	対象人数	延べ接種回数	接種率
平成24年度※	—	50,439	—
平成25年度	50,379	2,639	5.2
平成26年度	49,083	172	0.4

※平成23年2月1日から平成25年3月31日までは、中学1年生相当～高校3年生相当の女子を対象に、ワクチン接種緊急促進事業として実施

なお、子宮頸がん予防ワクチンについては、平成25年6月14日の厚生労働省の勧告以降、接種の積極的な勧奨を差し控えています。(25年度は個別通知未実施)

高齢者インフルエンザ予防接種実績 (接種回数1回)

〔対象：65歳以上または心臓・腎臓・呼吸器・免疫機能障害1級に相当する60～64歳〕

年 度	対象人数	接種人数	接種率
平成24年度	767,992	322,284	42.0
平成25年度	804,000	334,583	41.6
平成26年度	845,571	353,777	41.8

成人用肺炎球菌ワクチン予防接種実績

〔対象：各年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる方  
(接種回数1回) または心臓・腎臓・呼吸器・免疫機能障害1級に相当する60～64歳〕

年 度	対象人数	接種人数	接種率
平成26年度	191,331	79,898	41.8